

平成29年度都城市立西小学校 学校評価報告書

- 段階評価
- 4 しっかりできている。よくあてはまる。そう思う。
 - 3 どちらかといえばできている。おおむねあてはまる。少しそう思う
 - 2 どちらかといえばできていない。あてはまらない。あまり思わない。
 - 1 ほとんどできていない。全く当てはまらない。思わない。

項目	評価指標	学校の自己評価結果コメントと改善	自己評価	外部評価	学校運営協議委員のコメント
教育目標	○ 学校の教育目標「豊かな心と自ら学ぶ意欲をもち、積極的にねばり強くがんばる児童の育成」の具現化に努める。	○ 学校の教育目標及び経営ビジョンの具現化に向けて、学年・学級が具体的目標を立案し、確実に実践化に向けた取組を行うことができた。これまでに、計画的に評価を実施し、改善を図ってきている。また保護者の理解・協力も得ることができた。 ※ 全職員共通理解のもと、共通実践事項の徹底を図る必要がある。	3. 3	3. 3	○ これからも全職員で徹底した指導を行っていく。
学力の向上	○ 基礎的・基本的事項を定着させるとともに分かる喜びや考える楽しさを実感できる授業を実践する。	○ 年間指導計画に沿って確実に授業を行うことができた。学年を中心に研究授業等を行い、指導方法の工夫改善に向けた取組を算数科の主題研究と関連させながら実施できた。 ※ 個を生かす授業、個人差に対応したきめ細かな授業の構築をしていく。	3. 0	3. 0	○ 3つの学校(西小・西中・明和小)でコミュニティスクールとして具体的に進めていくようにする。 ○ 学校ボランティアの推進を図る。
	○ 学習内容の定着状況メントサイクルを確立する。	○ CRT学力検査に向けての基礎等の取組の充実を図った。 ※ これからも、web単元学習の推進を図っていく。	3. 0	3. 0	○ 少人数指導などの指導体制があり、個に応じた手立てがとられていて素晴らしい。
	○ 家庭との連携による家庭学習習慣の定着を図る。	○ 「家庭学習の進め方」等の資料を家庭に提供し、家庭学習の定着を図ることができた。 ※ 家庭の協力体制を充実させ、個人差へ対応していく必要がある。	3. 0	3. 0	○ 宿題の量は学年によって統一できるようにする。 ○ 宿題等のがんばりシールは児童の励みになる。
豊かな心の育成	○ 心に響く道徳教育の充実による道徳的実践力を向上させる。	○ 道徳の年間指導計画に基づいて確実に授業を実践することができた。1月の参観日には、人権教育に関する教材を取り上げ、保護者とともに命の大切さを考えるよい機会となった。 ※ 来年度も全校一斉に人権教育や生命尊重を基盤とした参観授業を実施し、児童の人権意識を高めていく。	3. 0	3. 0	
	○ 「オアシスサ」(おはよう・ありがとう・失礼します・すみません・さようなら)を定着させる。	○ 全校朝会での講話や生徒指導主事、学級担任の指導及び朝の「あいさつ運動」の実施により定着しつつある。 ※ 全校一斉にあいさつの励行に取り組んだり、家庭との連携強化を図ったりしてさらなる意識の高揚を図る必要がある。	3. 0	3. 0	○ あいさつは大人からするとあいさつをしてくれる。保護者への啓発も行っていくとよい。率先垂範を行う。 ○ 集団でのあいさつはできるが、個人でのあいさつはまだできない児童もいる。
	○ 異学年交流活動の充実により豊かな人間関係を構築する。	○ 集団登校や清掃、集会活動等の多くの場で交流を図ることができた。更に、他校(きりしま支援学校や西岳小学校等)の児童との交流活動も実施できた。また、縦割り清掃により班長のリーダーシップのもと異学の子ども達がお互いのよさに気付き、協力することの大切さについて学ぶことができた。 ※ 他校との計画的な運営等に努めていく。	3. 3	3. 3	

命を守る力の向上	○ 体育の時間における運動量の確保や運動実践意欲を高める環境整備により基礎体力の向上を図る。	○ 体育実技講習等の研修により、体育の指導法を工夫することができ、授業の充実を図ることができた。運動能力テストの結果もよい傾向が見られた。 ※ 外遊びの奨励や親子での継続的な体力づくりが必要である。	3. 3	3. 3	○ 持久走大会では、学校周辺を走るの、駐車されている車が危ない。 ○ ポイントに各先生方が立っているの、安全面に気をつけて実施していく。
	○ 生命尊重を基盤とした性に関する指導、保健学習や学級活動等における健康教育を充実させる。	○ 学校保健委員会で、「生命の誕生」について助産師の講話や、1月の参観日で性教育に関する参観授業などを実施できた。 ※ 保健学習や学級活動における生命尊重に関する取組が、学校生活等で波及し生かされるような手立てが必要である。	3. 7	3. 7	○ 助産師さんの講話など、専門的立場からの話は、とてもよい取組であると思う。
	○ 具体的・実践的な安全教育の実施により危険予知・回避能力を育成する。	○ 避難訓練の実施や安全に関する問題行動等があった場合の適時指導により、危険予知能力が高まりつつある。 ※ 避難訓練をもとに、自分の命を自分で守るために自己判断力を育成し、更に危険予知・回避能力を身につけていく必要がある。	3. 0	3. 0	○ 児童に事前に知らせるのではなく、抜き打ち的な避難訓練も必要ではないか。
地域との連携	○ 地域の教育力の積極的な活用によるふるさに誇りをもてる児童を育成する。	○ 5年「米作り体験学習」6年「平和学習」全校による「地域学習」など地域の人材や素材を活用した学習を計画的に実施することができた。 ※ 学校運営協議会やまちづくり協議会等と連携を密にし、さらに地域人材や素材を活用した学習を積極的に展開する必要がある。	3. 7	3. 7	○ これからも継続していき、協力体制を整える。 ○ 学校運営協議会委員との連携で来年度、学校近くに畑を借用し、学年毎に生産活動を行えるようになった。
	○ 学校評価システムによる家庭や地域から信頼される学校づくりに努める。	○ 保護者に対し本校の教育活動に対する評価を実施し、おおむね良好な評価を得ることができた。指摘事項等については、改善を図るべく次年度の教育課程編成に生かしていく。 ※ 評価対象者を保護者だけでなく地域住民に広げるなど、評価方法の工夫が必要である。	3. 7	3. 7	
その他	○ 読書の推進	○ 親子読書の推進や読書ビンゴ(読書カード)の取組などにより、読書意欲の向上に繋がった。 ※ めざす読書量を具体的に設定し、意欲化を図っていく必要がある。	3. 0	3. 0	
	○ 情報の共有	○ 夏季休業中に民生委員・児童委員との懇話会を実施し、様々な情報を共有することができた。 ※ 地域や関係機関と情報の共有ができる機会を設定する必要がある。	3. 7	3. 7	○ 来年度は、民生委員・児童委員の懇話会に学校運営委員会委員も参加する方向で計画されていることは、情報交換が深まり、大変ありがたい。
	○ PTA活動や地域活動への積極的な参加・協力	○ 児童や保護者への参加・協力の呼びかけを行い、PTAバザー、奉仕作業をはじめ、横市夏祭りや横市地区祭りなど計画的・協力的に事業を進めることができた。 ※ 様々な活動や事業への更なる参加・協力体制をつくる必要がある。	3. 0	2. 5	
	○ 地域との連携の強化	○ 今年度は、「朝の登校見守りたい」との対面式を行い、児童とのふれあいを通して、地域で見守っていく体制を作った。 ※ 学校運営協議会を通して、来年度も更に連携を強化していく。	3. 7	3. 7	○ 見守りたいのユニフォームを作って活動する。実働部員と児童との対面を実施し、取組を紹介していく。 ○ 青パトロール車もあるので、児童の安全を見守っていく。

1 本年度の成果と課題

【教育目標・基礎学力の定着】

- 学校の教育目標の具現化に向けて、研究主題を「確かな学力を身に付けた児童の育成」と設定し、本年度も、算数科において、習得・活用を意識した指導を通して児童の学力向上に取り組んできた。その成果としては、「しっかり教える」「じっくり考えさせる」ことを指導者がしっかり意識することが発問や板書等、指導法の工夫につながり、本時の学習内容を理解させることができた。また、○付け法の実践や教職員間でノート指導を共通理解したことで、児童が意欲的に取り組み、発達段階に応じたノートを書くことができた。ワークテストについては、各学年とも目標値を達成している。

課題としては、自分の考えなどをきちんと発表し、児童の表現力や思考・判断力を高める手立てをとる必要がある。また、算数読み声やデジタル教科書などを継続して活用し、職員の共通理解を図りながら徹底した取組を行いながら、実行性を高める必要がある。また、習ったことをきちんと習得させるために、ドリルやスキルの活用を図り、時間を確保しながら、繰り返し取り組ませることが大切である。

【心豊かで思いやりのある児童の育成】

- 生徒指導面では、下校時に友達の家や祖父の家などに寄り道して、保護者や兄弟から帰宅していないとの連絡が入り、職員による捜索等を行ったことが数件あった。どれも無事に帰宅できたが、不審者情報等も多い中、各学年とも再度安全な登下校について指導を行った。これからも命を大切にいくためには、きちんと生活のきまりを守り、安全に下校することが何よりも大事であることに気付くように声かけや見守りを行っていききたい。

地域や保護者の方から、登下校中での挨拶の声が小さいという実態や学校内ではあいさつするが、校外では、あいさつする児童が少ないなどの声も聞かれた。学校では、廊下歩行のきまりが守られていない現状があり、今後も継続して指導を続けていく必要がある。不登校傾向にある児童は現在いないが、家庭の都合等で、朝遅れて登校する児童が数名いる。

- さくら聴覚支援学校との一日・半日交流や西岳・吉之元小学校との交流学习等とおして、思いやりの心の育成に努めている。これからもお互いのよさに気づき、お互いが協力していくことの大切さについて体験とおして育成していききたい。

【体力づくりに取り組む児童の育成】

- 保健面では、保護者との連携を一層密にしながら、基本的な生活習慣を定着させ、健康な体力づくりに取り組むことが必要である。むし歯治療率は、60・8％で、年度当初の目標を達成している。また、肥満傾向にある児童に対して、個別指導に取り組み、食生活の改善など効果を上げている。

12月～3学期は、インフルエンザA・Bの流行により、学年閉鎖や学級閉鎖の対応となり、なわとび月間は設定したが、全校で取組むことが難しかった。

- 体力づくりについては、新体力テストの結果において「シャトルラン」「長座体前屈」「上体起こし」「ソフトボール投げ」はやや全国平均に近いが、「50メートル走」「握力」「反復横跳び」「立ち幅跳び」が全国平均より下回っている学年が多かった。特に、低学年では、ほぼどの種目も達成されていない状況である。今後とも体力向上プランに基づいて、関連する運動に力を入れていく必要がある。

【勤労体験活動の推進】

- ボランティア活動は、6学年を中心に行っているが、最高学年としての自覚を持ち、リーダーシップを発揮しながら、他の学年へも波及させ全校的に取り組んでいく必要がある。

- 学校運営協議会委員の御協力により、地域学習等で、地域の自然や人の活用が図られた。本年度の反省をもとに、更に組織的・機能的な活動内容を検討し、地域で学ぶ活動とおして、ふるさとを愛する児童の育成に努めたい。

- 今後とも、青少年赤十字の活動として、ペットボトルのキャップ集めや歳末助け合い運動の一環として、ボランティア精神の育成と国際理解に向けた取組を行っていく。

【ふるさと教育の推進】

- ふるさと教育の推進において、地域の自然や人材に学ぶ「地域学習」を行うことができた。特に、「総合的な学習の時間」を活用して、1年生は「縄ない」、2年生は「地域の方による読み聞かせと手遊び」、3年生は「地域のめいじんに学ぶ」、4年生は「防災士によるDIG」「5年生は「田植え」や「稲刈り」、6年生においては、「防災ひろめ隊による防災教育」などを行った。今後とも地域の教育力(ひと・もの・こと)を積極的に活用しながら、ふるさと教育の充実に努めたい。

【その他】

- 夏季休業中に、民生委員、児童委員の方々、学校運営協議会の方々との情報交換会をもち、地域での児童の様子等を把握し、貴重な話を伺うことができた。

2 次年度への改善点

- ① 本校の教育目標である「豊かな心と自ら学ぶ意欲をもち、積極的にねばり強くがんばる児童の育成」を学校運営協議会委員、保護者とともに達成できるようなシステム作りを構築する必要がある。そこで、本年度は、西小学校のみならず、三校(明和小学校・西小学校・西中学校)で組織体制が整い、年間2回の三校合同の学校運営協議会を開催できた。これから更に、西中学校区で地域支援コーディネーターの活用を図りながら、更に、学校と地域との連携に向けた取組を組織的・計画的に行っていききたい。

- ② 本年度は、算数科を中心に人権教育や特別支援教育など、ほぼ全職員が研究授業を行い、成果を確認するとともに、課題の解消に向けた取組を行うことができた。次年度も更に継続していくとともに、道徳科に向けた研究を深め実践していくなど教師の授業力の向上に向けた取組を行っていく。

- ③ 基礎学力の定着及び学力向上に向けては、CRT学力検査等の分析をしっかりと行い、理解のよくなかった内容について手立てをしっかりと講じて指導し学力の向上を図る必要がある。指導方法や指導体制の見直しを行い、習熟度別グループ指導の徹底や個別指導などきめ細かな指導を実施していく。

- ④ 危機管理については、交通事故や不審者への対応をしっかりと行い、保護者や地域の支援をいただきながら対応していく。また、インフルエンザや自然災害(風水害・地震・火事)、不審者などへの対応も、組織的機能を十分に発揮しながら児童の安全確保を最優先して取り組んでいく。

- ⑤ あいさつ運動の推進や清掃指導、廊下歩行等の基本的な生活習慣の徹底を全職員で共通実践していく。そして、教師が一人一人の実態等を把握しながら児童理解に努め、よりよい学級経営や学校生活を築けるように取り組んでいく。

- ⑥ 新体力テストの結果をしっかりと分析し、年間を通しての体力づくりの計画をしっかりと立て、体力向上に向けた取組を実践していく。また、積極的に家庭と連携しながら、親子でできる体力づくりを目指す。

- ⑦ むし歯治療率の向上などの具体的な健康課題解決のため、学校保健委員会の活用や家庭との連携などの手立てを講ずる。また、生命の尊重の観点から、自他の命を大切にす日の設定や道徳・特別活動等で計画的に指導していく。

- ⑧ 読書活動では、本年度は低学年は95冊、中学年は80冊、高学年は50冊を目標に掲げ取り組んできた。具体的に「読書運動会」や「読書おみくじ」等で児童の関心が高まるようなイベントを実施した。全校で貸し出し冊数が66000冊を達成した。更に親子読書の啓発など家庭との連携を図りながら読書活動を活発にしていく。

- ⑨ 今後もボランティア活動について、高学年のみならず、全校的に活動の輪が広がるように推進する。

- ⑩ 地域人材や地域の施設等の利用については、学校運営協議会を通して、地域人材や地域の施設等の活用を図り、またづくり協議会とも連携していく。

- ⑪ 民生・児童委員の方と学校運営協議会委員の方による連絡会・情報交換会をもち、地域との一層の連携を図る。更に年間を通して、参観日等の学校行事の案内を積極的に行い、ご意見等を教育活動に反映させていくようにする。